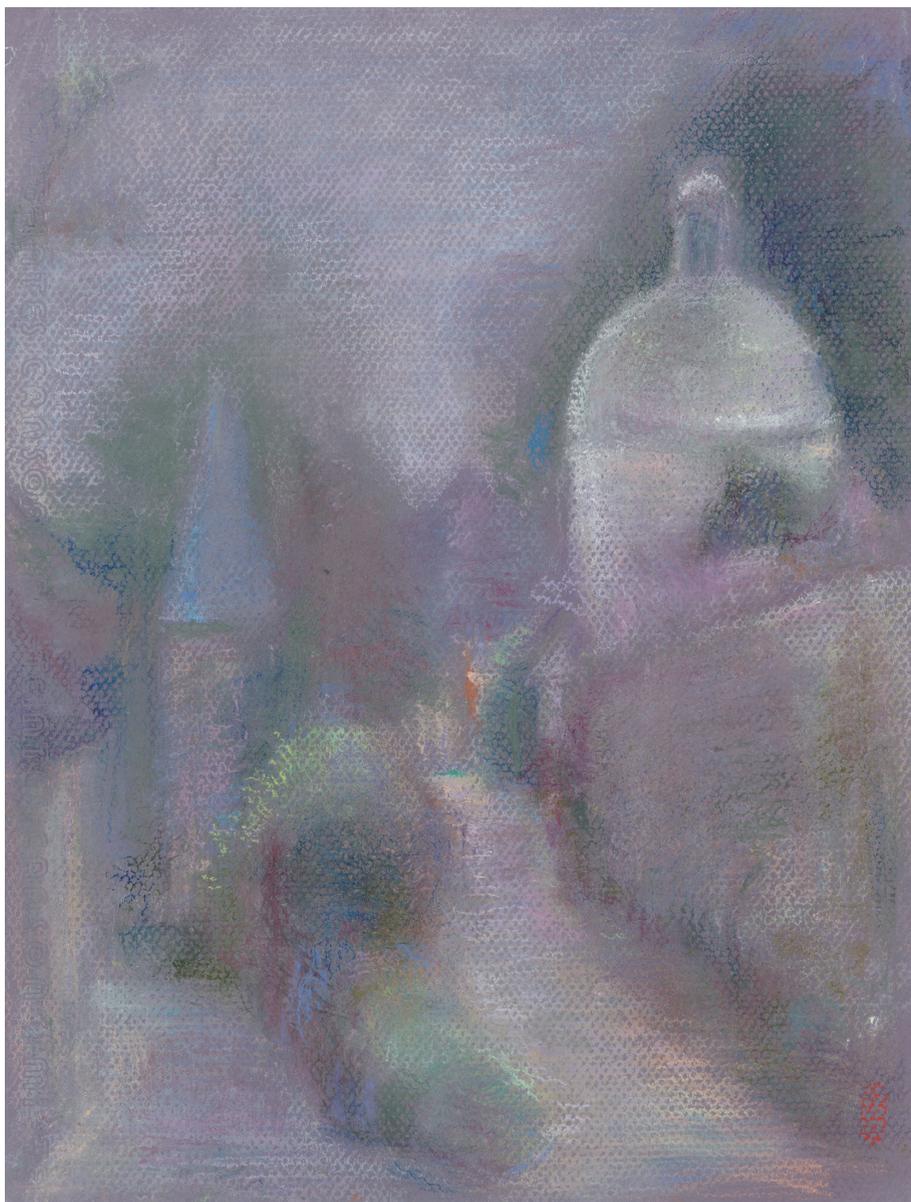


# 不二

中高版

1  
2023



お正月・元旦写経案内

不二  
中高版  
2023  
1月号  
公益財団法人  
日本書道教育学会

鎮<sup>ちん</sup>國<sup>こく</sup>大<sup>だい</sup>明<sup>みん</sup>神<sup>しん</sup>

鎮國大明神  
鎮國大明

署名では姓名を記す

(解説は17ページ)

小久保嶺石先生書

熊野古道  
くまのこどう

熊野古道

署名では姓名を記す

(解説は17ページ)

小久保嶺石先生書

参詣道  
さんけいみち

参詣道

署名では姓名を記す

(解説は17ページ)

小久保嶺石先生書

秀歌しゅうか之體のてい大略たいりやく

(筆者) 近衛家熙このえいえひろ (一六六七～一七三六・江戸中期の能書家・号は予楽院)

深緑ふかみどりあらそいかねていかならん 間まなく時雨しぐれの布留ふるの神杉かみすぎ  
 まんまきまのらまね神杉

『新古今和歌集 卷第六 冬歌581 太上天皇』

(解説は18ページ)

短冊について

鎌倉末期頃より和歌をし  
 たためる書式として広まり  
 ました。横約6cm、縦約  
 36・5cmの大きさで全懷紙  
 をたてに八等分した大きさ  
 です。短冊には上下があり、  
 雲・霞形は広いほうが、濃  
 淡は濃いほうが、着色が異  
 なる場合には色の濃いほう  
 が上といったもので、練習  
 用紙ならば、糊付けされて  
 いる方が上になります。

書式

伝統的な書式

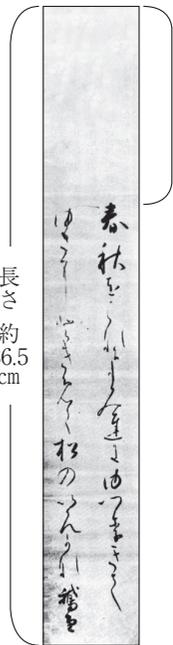
- 短冊の上部を1/3または1/4空け、歌を書き始める。
- 墨継ぎは和歌の場合、第一句・三句・五句で行う。
- 下部が詰まり過ぎないように、少し空けるとよいでしょう。
- 行間や、字粒にも気をつけ、作品として調和するよう心がけましょう。また最近では、このような伝統的な書式にこだわらず、自由に書くこともあります。

- 出品の際には、必ずバーコード出品券と月別出品券を表面左下に貼付けしてください。裏面には不二教室名、氏名を鉛筆書きしてください。

提出用紙—やや薄手の短冊練習用紙。

二つ折にて郵送できるもの。

余白 上部をおよそ1/4 (約9cm) またはおよそ1/3 (約12cm) 空ける



幅 約6cm

長さ 約36.5cm

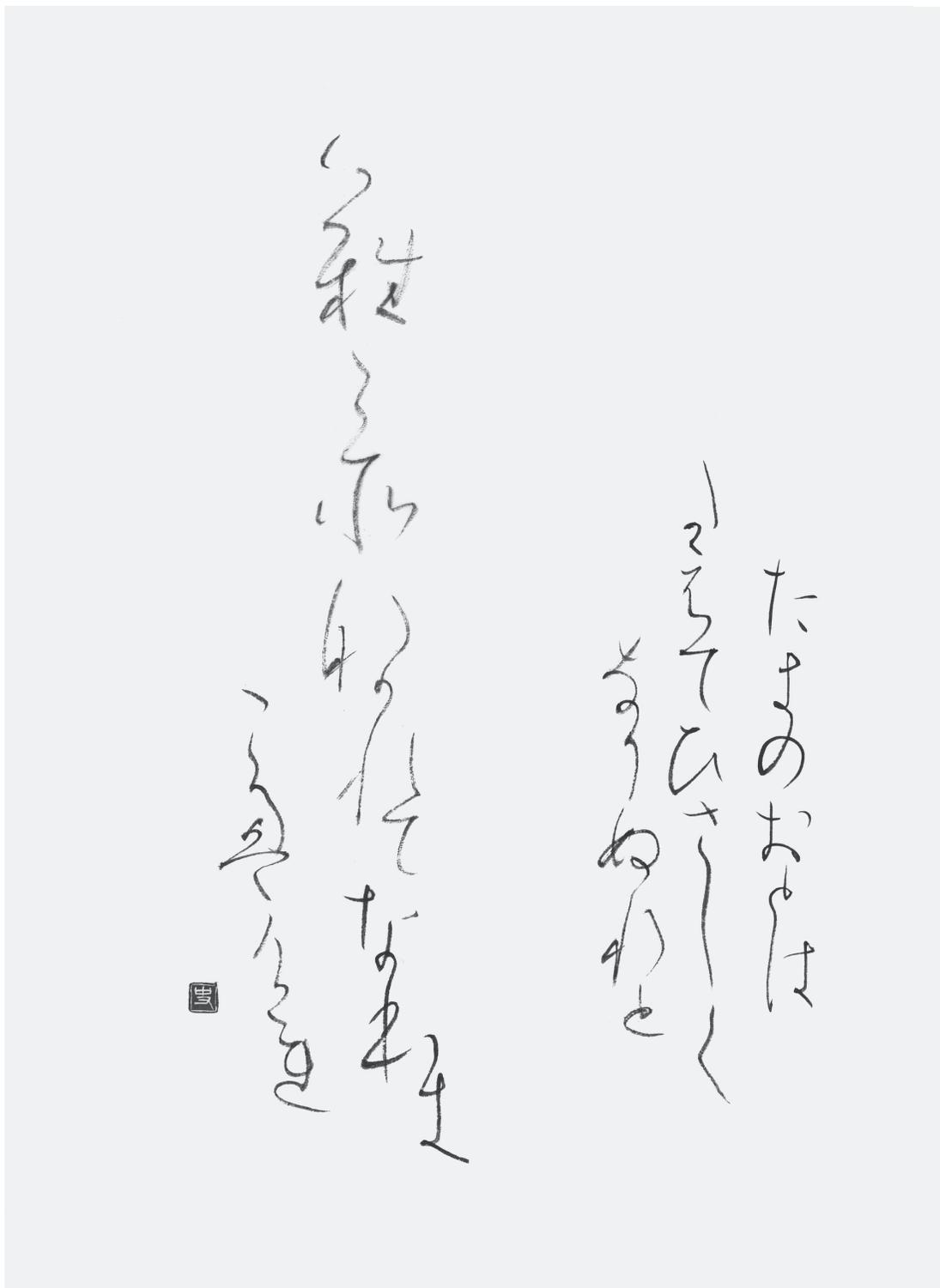
かな半紙 (四段～初段)

課題は段級別です。ご注意ください。

滝の音はたえて久しくなりぬれど名こそ流れてなほ聞こえけれ (大納言公任)

署名では姓名を記す

(解説は18ページ)

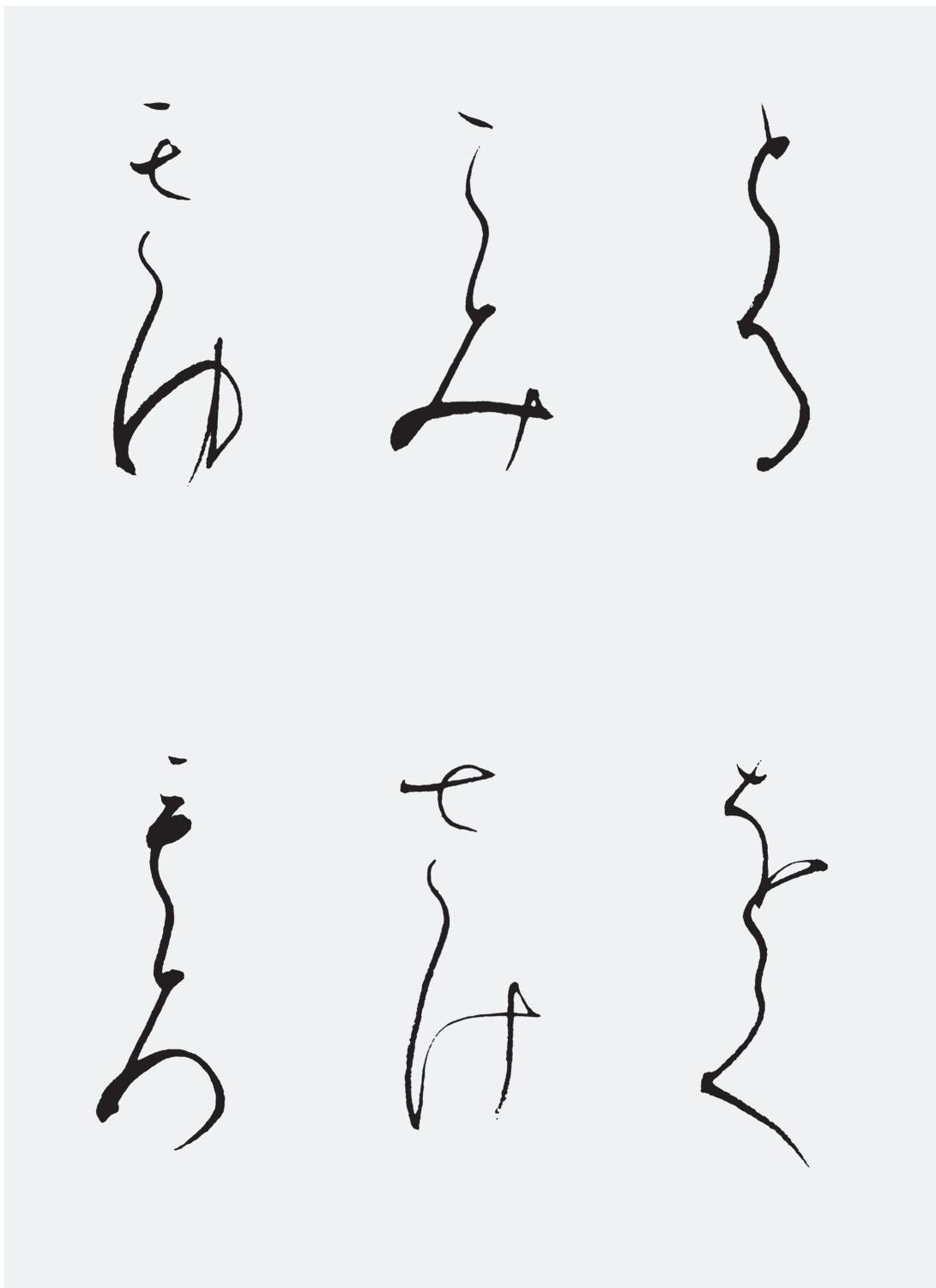


川島史子先生書

かな半紙 (1級~10級)

課題は段級別です。ご注意ください。

とる  
をく  
こみ  
さけ  
きゆ  
毛ろ



署名では姓名を記す

(解説は19ページ)

安東聖空書「梅雪かな帖」より

扁額の書をつくる (誌友ノ初段) 課題は段別です。ご注意ください。

課題 横額「氷壺」  
ひょうご

〈大意〉

氷を入れた玉の壺で、心の潔白なたとえ。氷心ともいう。

〈お手本鑑賞〉

切るような直線による、引き締まった結体が氷の冷たさを醸しています。濃墨の使用により、強めに表現された渴筆が明るさを作り、クリスタルの壺を彷彿とさせます。

壺の重字形に創作意欲が沸きます。縦と横の組み合わせによる重字形の表現を楽しみましょう。

扁額作品への取組み方

◎ 今回の作品では濃墨を使用しています。遅速や潤濁による墨色の変化を試みましょう。

◎ 事前に半紙で練習し、筆運びを確認し、運筆の呼吸を宙で書けるようにする。

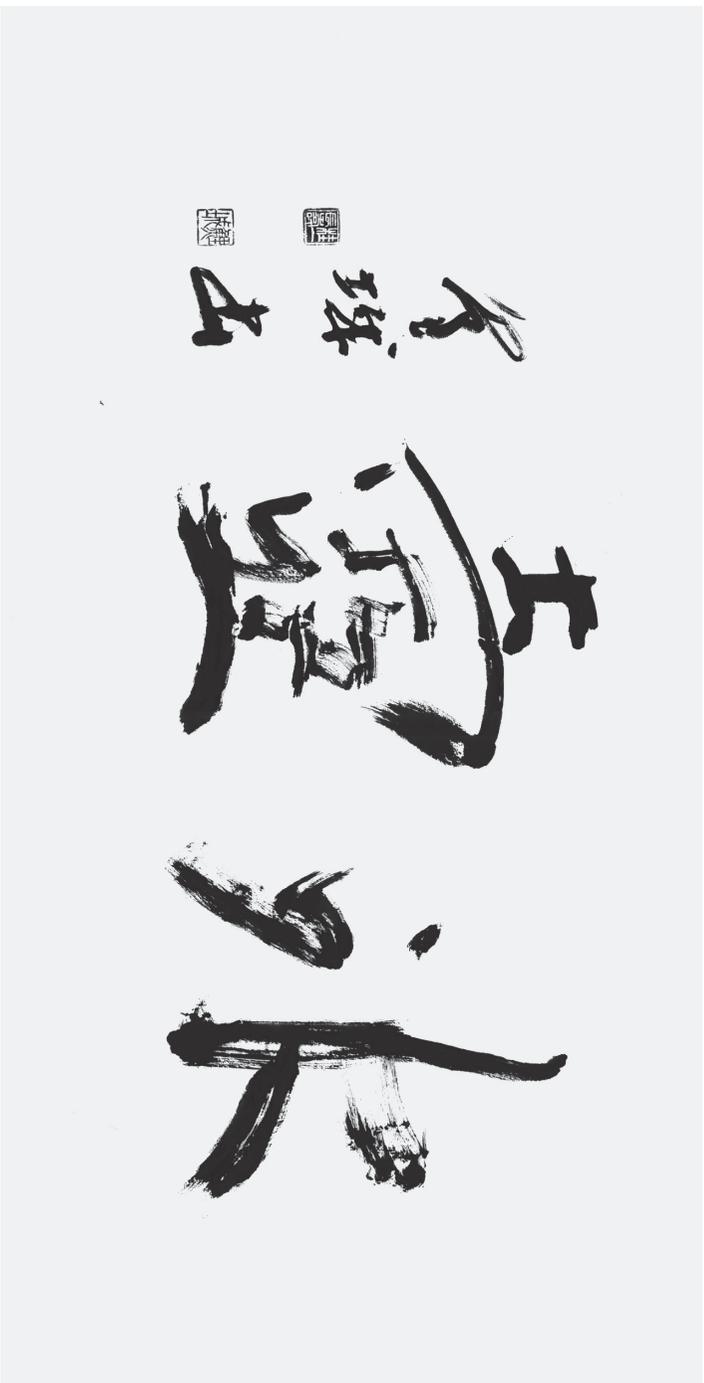
◎ 書き上げたら、遠目で眺め、章法や布置、筆遣い、結体、誤字、脱字の検討もおきたい。

◎ 書初課題の「王道」も書いて、表現方法の違いを考察してみよう。

〈用具・用材〉  
筆 〓 羊毫大筆  
墨 〓 一味真  
紙 〓 不二

月別出品券とバーコード出品券の貼り方

落款
① 教室名 段氏名 級
② 月別出品券
③ バーコード出品券



※ 作品識別のため、作品下部に教室・氏名の鉛筆書きをしてください。

〈落款解説〉

自分の名前  
石橋 鯉城  
書

書

漢字条幅 (1級〜10級) 課題は段級別です。ご注意ください。

小久保嶺石先生臨

柏見吐子效  
子柏見吐

仲子臨

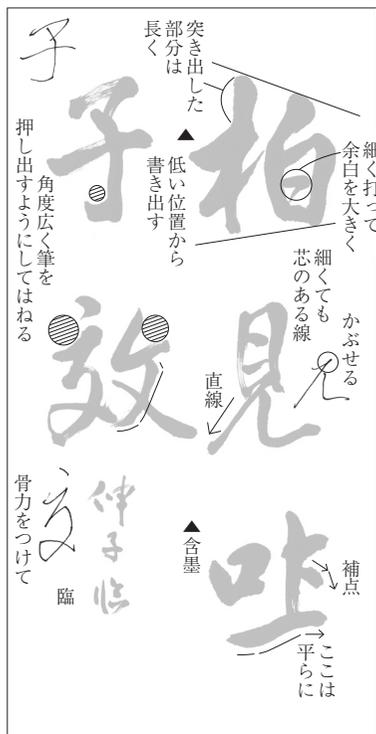
(用紙 画仙紙半折1/2・たて68cm×よこ35cm)

〈解説〉

- 柏…太くどつしりと書くが、「白」の内部の点を細く打って明るく。
- 見…太く書かれた文字の間に挟まれて細目に書くが、筆先を強く骨力をつけよう。
- 吐…最後に補点を打って、見事にバランスを取っている。
- 子…書き出しは逆筆。2画目の起筆を1画目に付くくらい伸ばして、上部が三角になるのは古代文字からの書きぶり。
- 效…効の本字。ここでは、なだらう、まねる、の意。骨力のある線で。



柏見吐子效 (柏は見て子を吐きて效う)  
 〈大意〉(前句の「秋の花は丸く光を輝かせている」を受けて、) 柏はそれを見習って実をつけている。  
 蜀素帖 (北宋・一〇八八年) 米芾 (一〇五二〜一一〇七)  
 〈学び方〉  
 ○条幅用の筆を用いて、体を大きく使って書こう。  
 ○余白を含めた布置の取り方を学ぶ。



〈用具・用材〉

筆 永昌条幅

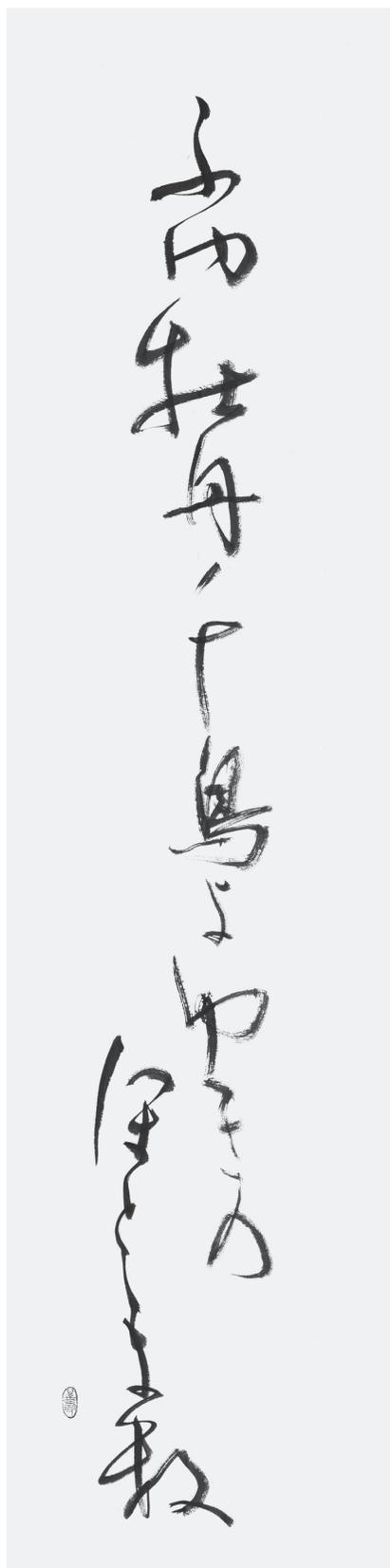
墨 和墨 紙 中国画仙

※〇〇臨と入れます。

※作品識別のため、作品下部に教室・氏名の鉛筆書きをしてください。

かな条幅 (誌友 10級)

須山万寿先生書



冬牡丹千鳥よ雪のほととぎす

(用紙 画仙紙半折・たて 136 cm × よこ 35 cm)

〈読み〉 ふゆ牡丹千鳥よゆきのほととぎす

〈出典〉 甲子吟行 (野ざらし紀行) 松尾芭蕉

〈大意〉 桑名本當寺 (二本統寺) にて。

庭に咲く冬牡丹に折から千鳥の声が聞こえる。牡丹の折のほととぎすではなくて冬牡丹になく千鳥は雪のほととぎすともいうべきだ。

〈解説〉

○一行目は真直ぐ書いているのですが、それぞれの字の中心をずらして動きを作ります。

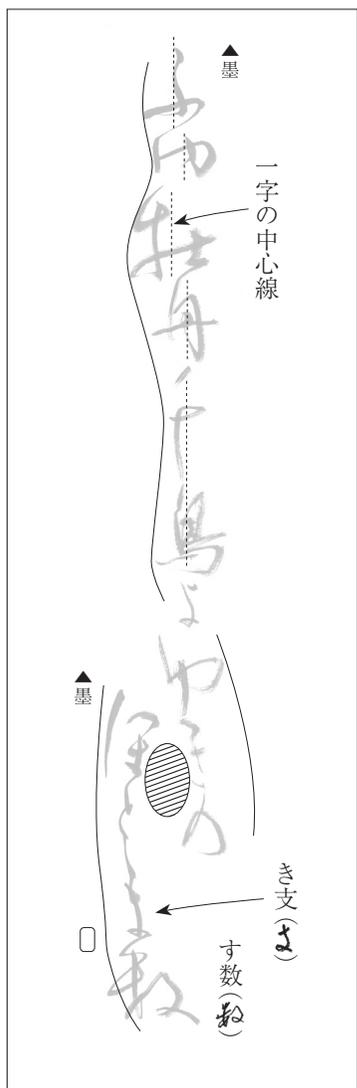
○二行目の「ほととぎす」は左にふくらませ連綿で書きます。

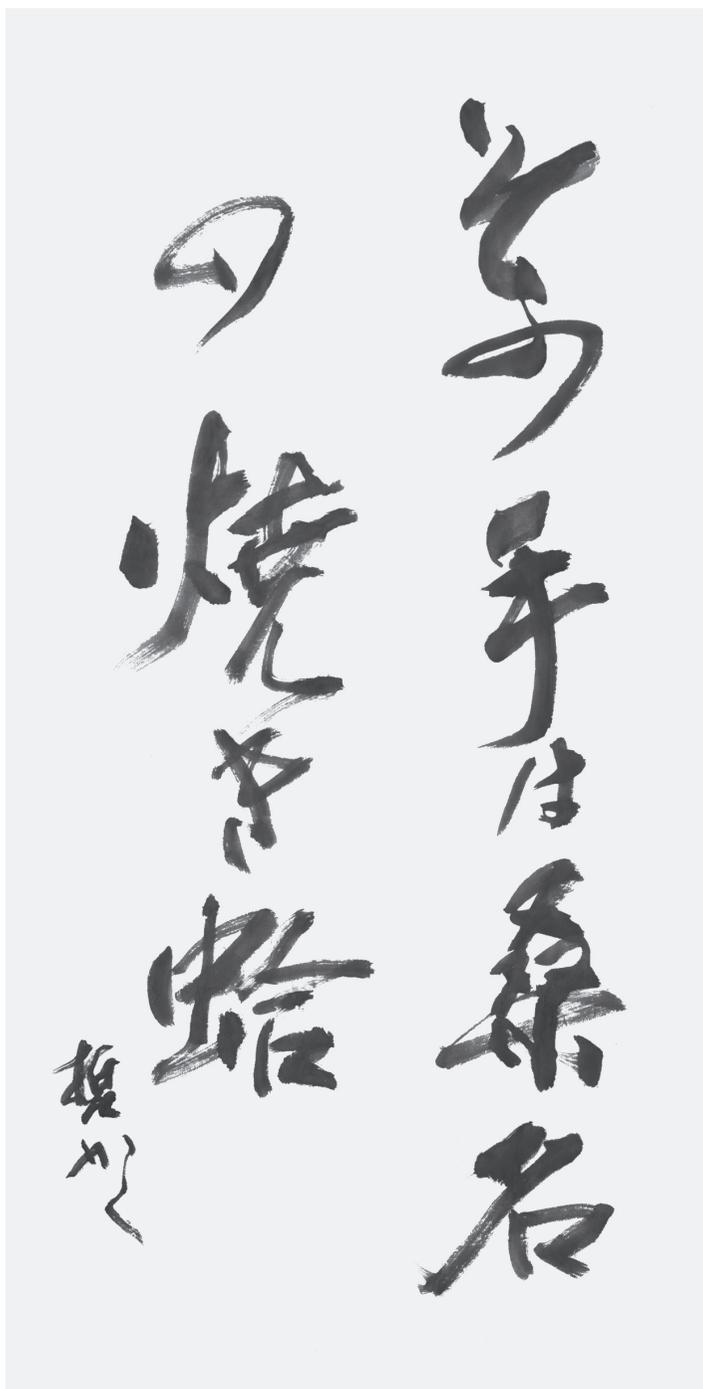
○変体かなは最後の「きす」の二文字です。「す」は「數(数)」です。

〈用具・用材〉

筆 羊毫筆 墨 和墨  
紙 かな用加工紙

※作品識別のため、作品下部に教室・氏名の鉛筆書きをしてください。

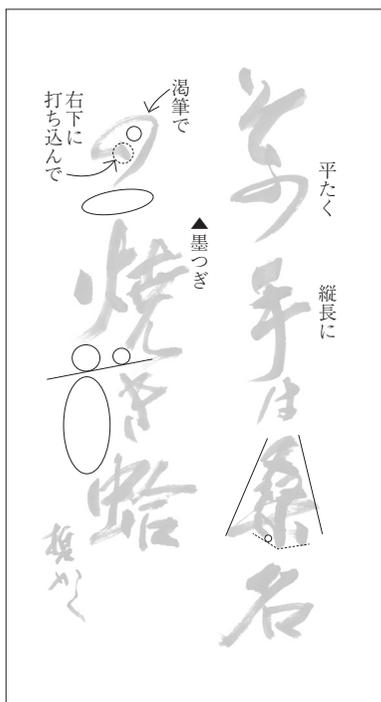




永井香樹先生書

(用紙 画仙紙半切1/2・たて68cm×よこ35cm)

※作品識別のため、作品下部に教室・氏名の鉛筆書きをしてください。



その手は桑名の焼き蛤 はまぐり

〈課題より〉

○「食わない」に地名の「桑名」を掛け、さらにその地の名物「焼き蛤」を続けたもの。そんなやり方にはだまされない、の意をしゃれて言った言葉。

〈解説〉

○一行目は「その手は桑名」にして、文意のしゃれを表現してみました。

○「しゃれ」の文言を楽しみながら書きましょう。

○短い線や中心に近い線は太めにし、一字の中で太細の変化を表現しましょう。

○文字の脚を揃えないで、流れ・余白を生かしましょう

〈用具・用材〉

筆 〓 四号羊毛和筆  
墨 〓 和墨 紙 〓 手漉漢字和画仙

ひとをね  
一尾根はしぐる、雲か富士のゆき

芭蕉

一尾根はしぐる、雲か富士のゆき  
芭蕉

(用紙 半紙)

署名では姓名を記す

(解説は19ページ)

石橋鯉城先生書

ペン（八段く初段） 課題は段級別です。ご注意ください。

堀津節子先生書

熊野市で産出される那智黒石は、  
黒色で細粒の泥質岩であり、  
碁石や硯などに加工されます。

熊野市で産出される那智黒石は、  
黒色で細粒の泥質岩であり、  
碁石や硯などに加工されます。

〈用具〉 つけペン、万年筆またはデスクペン、  
ボールペン、インクは黒色

（鉛筆は不可）

〈用紙〉 不二硬筆用紙3行書き

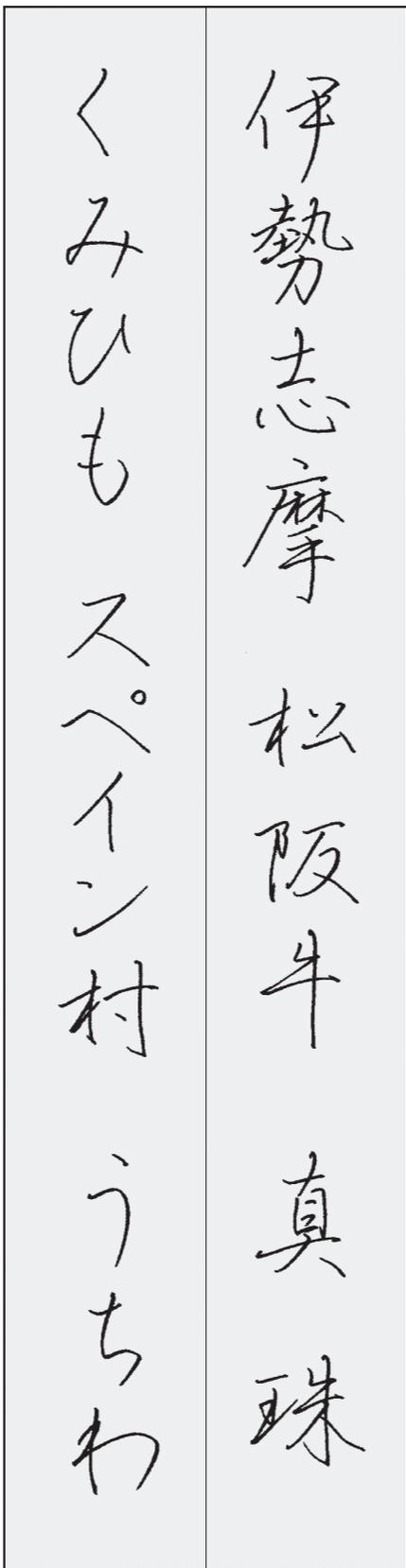
〈解説〉

<p>や 硯 た ま ご に は ら は ま す 。</p> <p>戻る ※</p>	<p>黒 色 で 細 粒 の 泥 質 岩 で あ り 、 碁 石</p> <p>右より ※ 止めて</p>	<p>熊 野 市 で 産 出 さ れ る 那 智 黒 石 は、</p> <p>出して ※ 長く ※ 少し戻る ※ 長く ※ 少し戻る</p>
--	---	--

上の文字の取筆から※印まで一文字のように続ける

ペン（1級〜10級） 課題は段級別です。ご注意ください。

小島鳳浴先生書



伊勢志摩 松阪牛 真珠  
くみひも スペイン村 うちわ

〔用具〕 つけペン、万年筆またはデスクペン、ボールペン インクは黒色（鉛筆は不可）  
〔用紙〕 不二硬筆用紙2行書き

〈解説〉

<p>折る ゆっくり</p> <p>直線で</p> <p>縦に打つ↓ しっかりとした起筆</p>	<p>① ② ③</p> <p>点の表現</p> <p>前の画から流れよく</p> <p>左に出す</p> <p>長 短</p> <p>筆写体</p> <p>止</p>
--	--

〃一字書って面白いな〃 — 筆遣いと筆字の表現 — 運筆の極意に迫る

〃何か、この字への想を込めて書こう〃  
オモイ

(随意課題)  
段級に関わりなく出品できます。  
評価は天と地になります。

〈平がな一字書〉(参考作品)  
ね (この平がなの原字は「禰」の草書形)

(用紙 半紙)



〈平がな二字書〉

よの巻く處は縦線の終筆部分で止め、跳ねるようにして巻きを作る。  
押えず筆の重さで書くように。

〈漢字一字書〉

縦画は、運筆の往還の原理で、縦画を書くに当たっては、前傾してその前傾の戻りで書く。縦画をこの様に書けば字が立つ。

〈漢字一字書〉(参考作品)

禰(読み) ネ・かたしろ、みたまや

〈意味〉 父親の靈廟、かたしろ。

(用紙 半紙)



【禰の書き順】



① 示偏は「ネ」も「示」も両方書く。禰(禰)宜は神に在る人を言う。

〈用具・用材〉 筆 || 特選永昌 墨 || 和墨 紙 || 松雪

石橋 鯉城 先生書

※作品識別のため、作品下部に教室・氏名の鉛筆書きをしてください。





「秀歌之體大略」  
 深緑あらそひかねていかならん 間なく時雨の布留の神杉 解説 福原溪春先生

〔読み〕 深見(かみ)り利(り)あら所(せ)ひ可(か)ねてい可(か)ならんまな久(く)志(し)久(く)禮(れ)の不(ふ)能(の)神(かみ)杉(さき)  
 〔大意〕 ああ深い緑が、時雨に争いかねて、どのような色になることであろうか。絶え間なく時雨の降る、このごろの布留の神域の杉よ。

※「布留」は、奈良県天理市布留。「布留」に「降る」をかけている。

〔出典〕 新古今和歌集 卷第六 冬歌 581 太上天皇(だいてんじょうてんのみかど) (後鳥羽院)

〔解説〕

○行の流れを把握して書こう。

- ・1行目「あら所ひ可年」の「ら」「可」が中心より右寄りで、「那らん」の「ら」が右寄りで「ん」がかなり左に寄っている。
- ・2行目は、ほぼ中心軸の上に位置している。

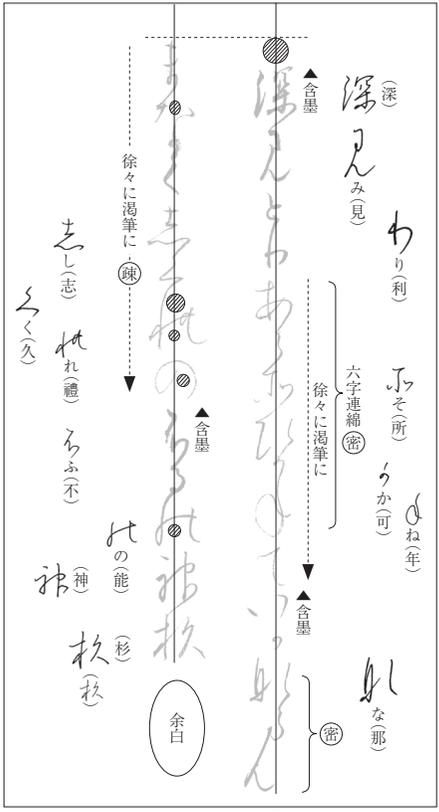
○墨色の変化に留意する。

- ・渴筆部は墨をしばらく出すようなつもりで、ゆっくり運筆する。
- ・疎密の変化に留意する。

○変体仮名・漢字の草書(くずし方)を理解してから書こう。

- ・「見・所・年・那・禮」「神・杉」など。

○5ページの「短冊の書式」を理解して全体の構成を考える。



滝の音はたえて久しくなりぬれど名こそ流れてなほ聞こえけれ (大納言公任)

〔読み〕 た(た)支(き)のおとは多(た)えてひ(ひ)さしく奈(な)りぬ(ぬ)れど難(な)こ所(せ)那(な)可(か)れてな本(ほん)支(し)こ盈(え)介(け)蓮(れん)  
 〔大意〕 滝の音は聞こえなくなつてから久しくなつてしまつたけれど、その名高い評判は流れ伝わつて、今でもやはり聞こえていることだ。

〔出典〕 小倉百人一首55 (拾遺集 雑上)

〔解説〕

繰り返される音を、うまく書き分けましょう。

今月の和歌には、「なり・名・流れ・なほ」と、ナの名を重ねる技巧が使われ、心地よいリズムが形成されています。

しかし、三十一音の中に四つもナがあると、書き分けるのは厄介で、こうした場合こそ変体がなを有効に使いたいものです。

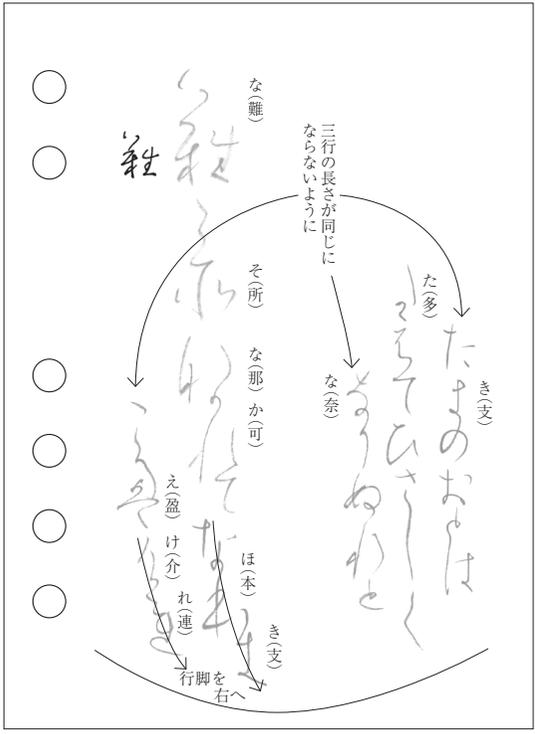
他にも、レが三回、タ・キ・ト・コ・エ・テが各二回出てきます。

繰り返される音・文字が、同じ姿・字形にならないように書いて下さい。

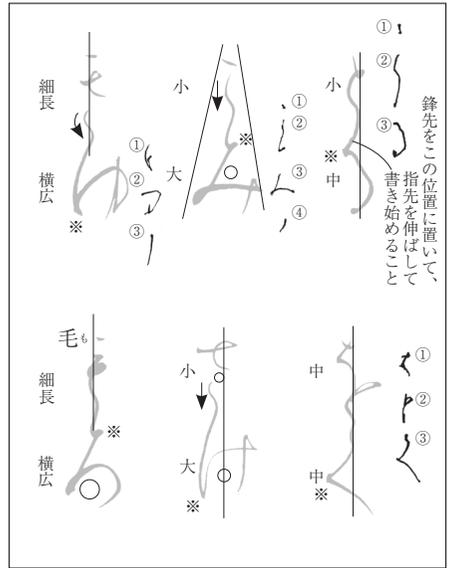
〔用具・用材〕

筆 かな用小筆 紙 かな用半紙

墨 かな用和墨



※左はしには、教室名・氏名を入れます。



かな半紙 (1級〜10級)

(7ページ)

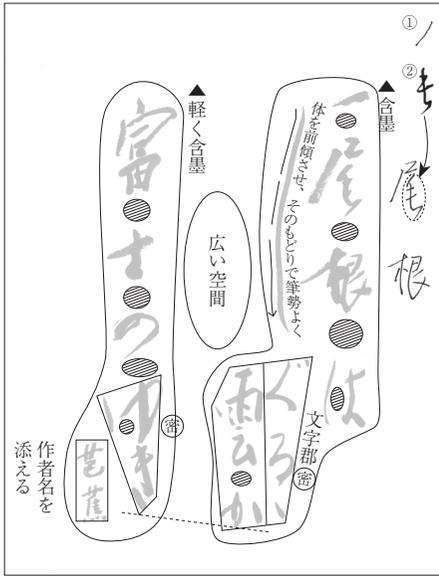
とる を 久  
こみ さ け  
き ゆ 毛 ろ

※二字連綿は古典の表現で和歌の基本的な美をつくる大切なものです。繰り返し学習しましょう。

新和様 (1級〜10級)

(12ページ)

ひとまね  
一尾根はしぐる、雲か富士のゆき



〈大意〉

雪におおわれて天空に聳える富士山。その一つの尾根に低く雲がかかっているが、あれは時雨をふらしているのだろうか。

〈作者〉

松尾芭蕉 (一六四四〜一六九四)

〈解説〉

●墨を磨り、墨色の变化を楽しみながら書くことよ。

●半紙用の筆を用い、鋒先を上手に使って書く。

●横画は軽快に筆を運び、縦画は筆の重さでゆつくりと筆を運ぶ。

●全体を二つのグループで構成する。

●それぞれのグループの中にも文字群がある。

●文字の大小、長短、字間のあき具合、潤渴の変化に留意して流れよくまとめよう。

〈用具・用材〉  
筆 超長鋒羊毫筆  
墨 頭微無間 紙 松雪

◆2月号課題予告

漢字半紙

誌友 五段 五箇山民謡

四段 初段 大伴家持

1級 10級 蟹気楼

かな半紙

誌友 五段 い所の可見ふる能、小篠志もをへ弓

四段 初段 日とよ盤可利尔残る東し可那

由良のとをわたる舟人かぢをたえ

ゆくへも知らぬ恋の道かな (曾備好忠)

1級 10級 ほし はれ ぬふ

ねて るの 阿ら

扁額

誌友 初段 未定

漢字条幅

1級 10級 米芾 蜀素帖臨書

かな条幅

誌友 10級 雪山に雪の降り居る夕かな

新和様

八段 初段 流れ去った時間は

二度と帰ってこないんだ

ペン

八段 初段 万葉集の編者で歌人でもあった大

伴家持は、七四六年から五年間、

越中の国守として現在の高岡に赴

任した。

1級 10級 和紙 黒部峡谷 大仏

チューリップ ほたるいか

※課題は変更になることがあります。

東京都美術館にて書道學會展と同時開催

# 第72回 全日本学生書道展

会期 令和5年1月4日(水)～1月10日(火)

◇会場：東京都美術館 2階第2・3展示室（東京都台東区上野公園 8-36）

◇時間：午前9時30分～午後5時30分（入場は午後5時まで）

※最終日は午後2時まで（入場は午後1時30分まで）

◇主催：公益財団法人 日本書道教育学会

◇後援：文化庁・中国大使館・東京都教育委員会・読売新聞社・  
日本テレビ放送網株式会社

入場  
無料

※授賞式は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、特別賞受賞者のみを対象に執り行います。

漢字かな交じり書と漢字造型 二つの新しい書美の探究を目指す

## 公募 第36回 不二現代書展

会期 令和5年7月4日[火]～9日[日] (予定)

会場 兵庫県立美術館 ギャラリー（ギャラリー棟3階）

（兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1丁目1-1）

時間 午前10時～午後6時

（入館は午後5時30分まで）

出品料 13,000円（税込）

※ただし部門を跨いで出品の場合は2点目以降1点につき7,000円とする。

【主催】公益財団法人 日本書道教育学会

～日本の伝統文化「書初」にご家族・団体でご出品を！～

## 令和5年 書初不二誌上展

作品  
募集

出品期間：令和5年1月11日(水)～1月17日(火) 必着

表彰

特選・金賞・銀賞・銅賞

特選・金賞には賞状及び賞品を、銀賞・銅賞には賞状を贈呈します。

特選に選ばれた作品は

不二各誌・ペンの力3月号に写真版として掲載されます。

\*出品要項は本誌50～53ページをご覧ください。

〈送り先〉  
〈問合せ先〉

〒101-8358 東京都千代田区西神田2-2-3

電話 03(3234)3956

公益財団法人 日本書道教育学会 書初不二誌上展係 FAX 03(3234)3548

会員番号	
不二教室	
段級	名前
漢字半紙	
かな半紙	
漢字条幅	
かな条幅	
新和様	
ペン	